



七好葉志の物語 七



~ 13
3732
7



鼠祠通夜譚

種彦作國貞重

自初編到五編

信列鼠の里ある和泉小僧と云少年鎌倉殿の昵近三浦二階堂其餘諸大家と許すの財寶と盗と名と高くせし物語耳新しき奇聞あり和列山辺氏の貞發の事蹟小綴合せたり預高評と布くとする

せんきのゆき

せんきのゆき 六十四銅 二銅

實母散

實母散 中橋南傳馬町丁自東八葉堂孝輔製

新編九尾傳

當年之内 爲水春水作 自初編至五編 梅鉢樓國貞重

初編八鎌倉の管領持氏朝臣那須野小待倉より起り妖婦玉面を産み... 三篇六結城氏朝十葉貞胤等玉面の妖怪あり... 續中を毛性の兇雄一個生といふる不至る西篇五篇

13
3732
7

七事志



七事志の巻
画 国 代 終
頁



七
新
の
飾

七編下

七編上

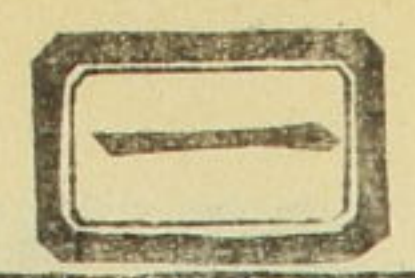
柳亭種彦作
梅屋楼国貞畫

七草のついで



七草のついで

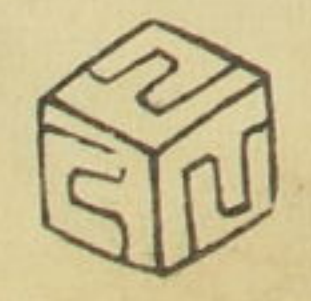
柳 七草
箸 七草
梅 七草
樓 七草
七草 下



八九とも有死を七小定も不測あれど先世の始神世七代天よ七政北斗七星
 國の畿外を七道よ分つ八日の正月七日安産祝も七夜より七支の著袴齒を
 深る初集る七所鉄將有卦の七年七福神給ふ財も七寶充滿甲子の供物も
 七色菓子浦の七浦七笑壽鯨の大漁小七里潤澤疥癬の傳染の七筵七布を
 空て君を待た蚊屋の外も七の鐘七坊主七小町瓶を傾る七人狸々金を沸湯で
 せんけ千家の七車七種の蓋置竹相狹子の七道具と筆やうべ七日七夜さ指を折
 力車よ七車積とも尽ぬ七の數是皆七小限らぬを七と定め古人の料見
 解ね事いさよぬあても不思議ハ七奇七編を今年の秋七月七日棚機
 手向の歌をか次手不圖筆を把初

乙丑中元前一日脱藁
 丁卯始春發市

柳亭種彦





木邊須具六女檀



多岐都比賣命



Handwritten text in a cursive style, likely a narrative or dialogue, positioned above and to the left of the samurai figure.

Handwritten text in a cursive style, positioned below and to the right of the samurai figure.



Handwritten text in a cursive style, positioned above and to the left of the bearded character.

Handwritten text in a cursive style, positioned below and to the right of the bearded character.

ついでにこれいふも
あつちのあつちの
ついでにこれいふも
あつちのあつちの
ついでにこれいふも
あつちのあつちの
ついでにこれいふも
あつちのあつちの

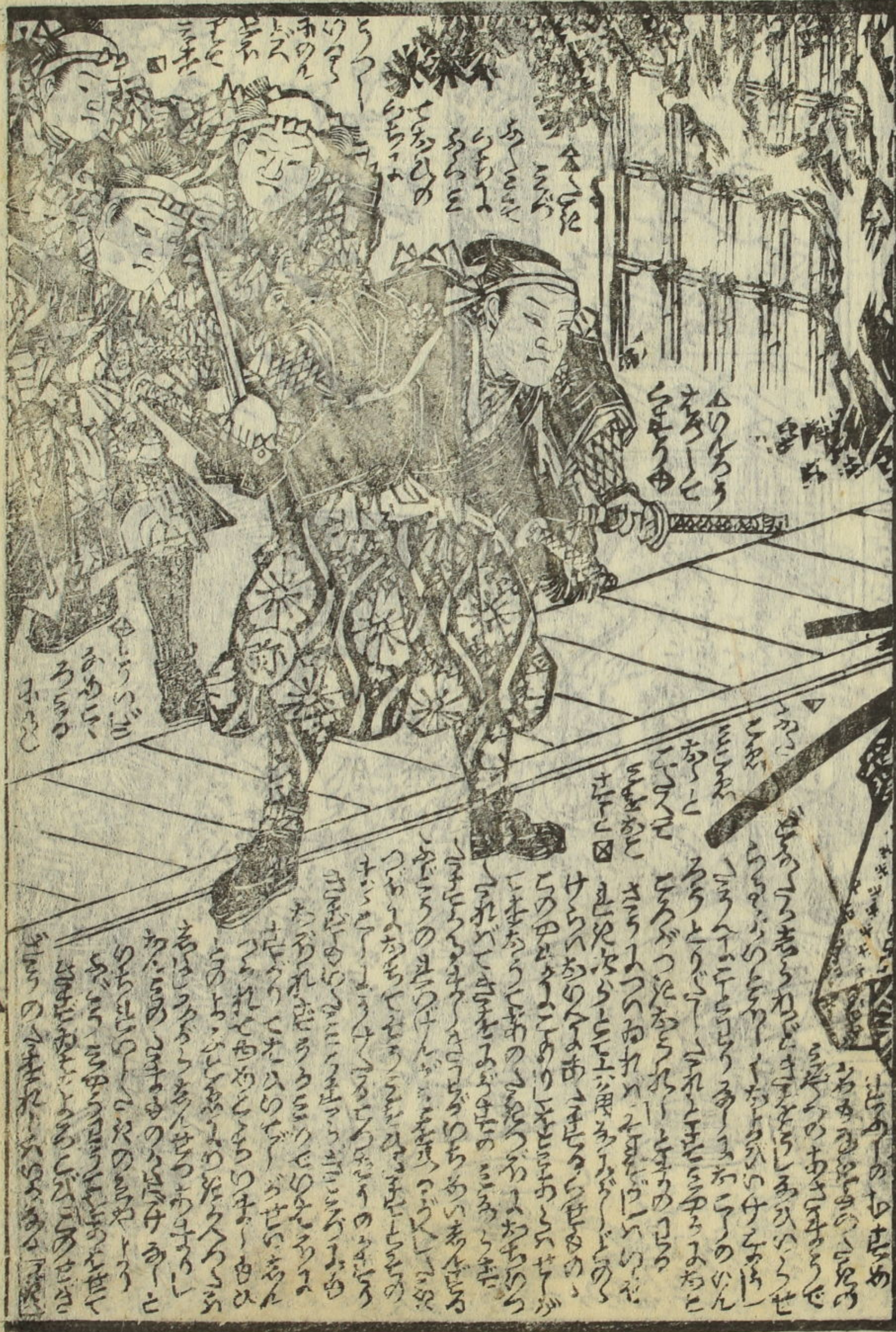
作者中
弓の丞らかゆ
よりそひのこ



あつちのあつちの
ついでにこれいふも
あつちのあつちの
ついでにこれいふも
あつちのあつちの
ついでにこれいふも
あつちのあつちの
ついでにこれいふも
あつちのあつちの



あつちのあつちの
ついでにこれいふも
あつちのあつちの
ついでにこれいふも
あつちのあつちの
ついでにこれいふも
あつちのあつちの
ついでにこれいふも
あつちのあつちの



昔話七

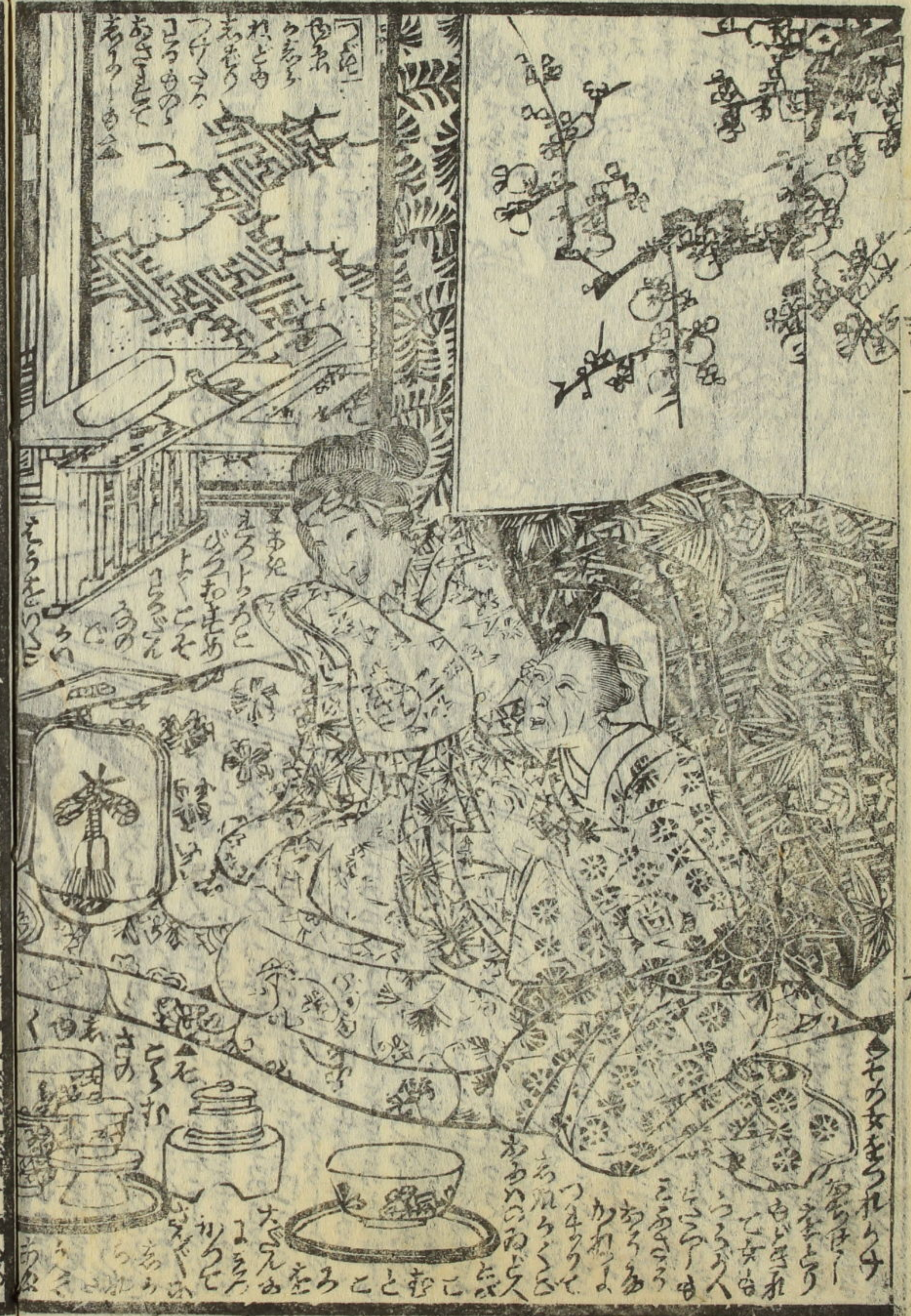
七



全まじり
なつるまは
うらやま
とまのりのちの
あつちこころと
やアトのひらこころ
とかなるまをうたのひ
あられどもちちか
こころあやうたを
あわれとこころあやうたを
このさもあやうたを

あつちこころと
やアトのひらこころ
とかなるまをうたのひ
あられどもちちか
こころあやうたを
あわれとこころあやうたを
このさもあやうたを

あつちこころと
やアトのひらこころ
とかなるまをうたのひ
あられどもちちか
こころあやうたを
あわれとこころあやうたを
このさもあやうたを



あつちこころと
やアトのひらこころ
とかなるまをうたのひ
あられどもちちか
こころあやうたを
あわれとこころあやうたを
このさもあやうたを

あつちこころと
やアトのひらこころ
とかなるまをうたのひ
あられどもちちか
こころあやうたを
あわれとこころあやうたを
このさもあやうたを

あつちこころと
やアトのひらこころ
とかなるまをうたのひ
あられどもちちか
こころあやうたを
あわれとこころあやうたを
このさもあやうたを



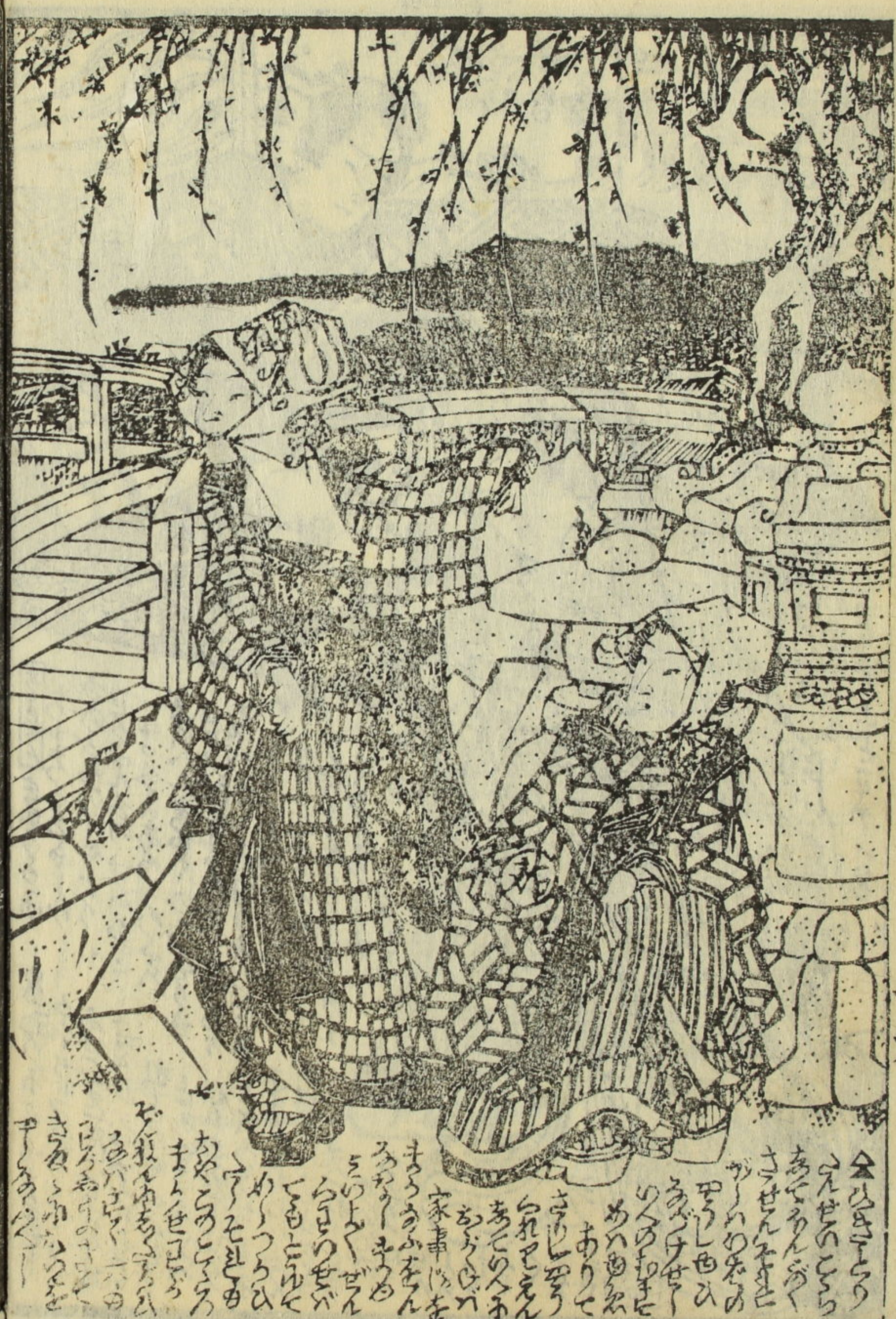
七

七



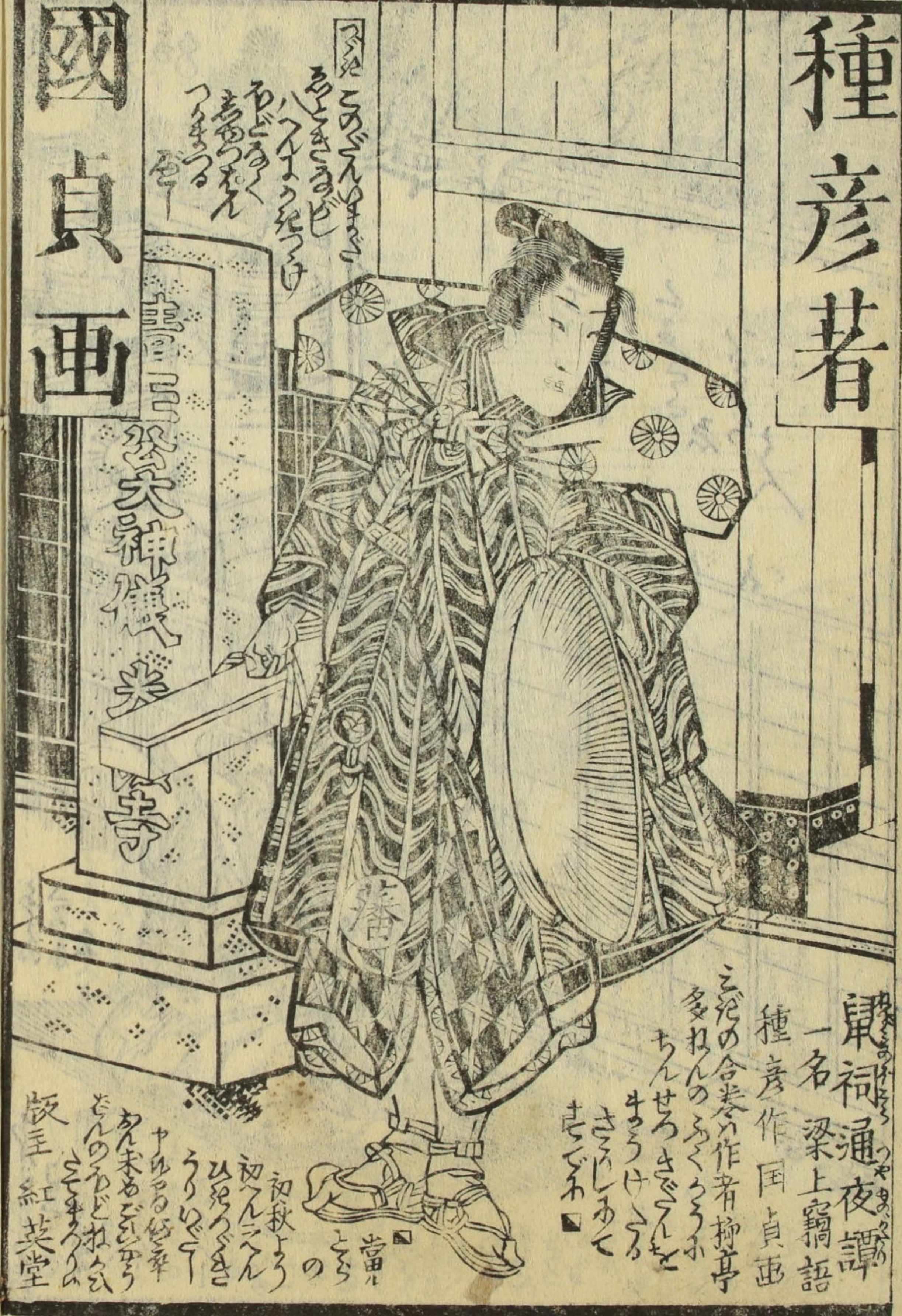
七

七



種彦著

國貞画



書三 天孫儀 米 寺

鼠祠通夜譚

一名 梁上竊語

種彦作 國貞画

此の合巻の作者柳亭

多れんのふくろうふ

ちんせろきんを

まじりあて

まてあ

當

初秋上

初八二八

ひんげん

うりい

ヤルロの

か未あ

さんのも

とて

版主 紅英堂

慶應二年丙寅春開板目標

七海のぞの葛飾譚

五編より 柳亭種彦作
八編まで 梅蝶樓國貞画

室町源氏胡蝶卷

八編種彦作
一編國貞画

筆海四國聞書

種彦作
國貞画

假名清談意睡看

四編如草作
大尾國貞画

明鴻墨画通福福

種彦作
國貞画

童謡妙々車

廿二編種彦作
廿一編國貞画

花封卷口玉賣

十編種彦作
大尾國貞画

薄倂幻日記

十六編春水作
十五編國貞画

尖傳谷の双紙

柳亭種彦作
國貞画

地本双紙問屋

鳥屋吉藏板



極楽